

# FD NEWS

No.17 2006年6月30日

摂南大学 FD 委員会

〒572-8508 寝屋川市池田中町 17-8

TEL: 072-839-9106

E-mail: [kyomu@ofc.setsunan.ac.jp](mailto:kyomu@ofc.setsunan.ac.jp)

## 摂南大学

### 今後のFD委員会のありかたについて

FD委員長 牛丸 與志夫

今年度より、摂南大学における全学のFD委員会の位置づけについて変更が行われたので、変更の考え方を述べておきたい。従来、FD委員会は、学長の諮問機関として、摂南大学におけるFD活動の様々な問題について議論を行い、学長に対し提言を行ってきた。そして、学生による授業アンケートの実施、授業の公開、FDフォーラムの開催およびFDニュースの発行等の多くの成果をあげてきた。しかし、今年度からは、FD委員会は、全学の教務委員会の小委員会に位置づけられることになった。このたびの変更は、摂南大学におけるFD活動の縮小を図ったものではなく、むしろ、発展・深化させることをめざすものである。特に、各学部においてFD活動を活性化させることを目的にしている。

FD活動の推進は、教員の教育力の向上を目指すものであり、従来から存在していた全学の教務委員会の管轄に本来、属せしめてもよかったと思われる。しかし、摂南大学において新たにFD活動を積極的に推進するにあたって、学長の強力なリーダーシップがなければスムーズにいかなかった可能性もあり、当初においてFD委員会を学長の諮問機関にせざるを得なかったことは理解できる。しかし、FD委員会を学長の諮問機関として位置づけていたことにより、FD委員会において行われた議論および提言について、学部教授会に報告がなされず、学部の教授会構成員に必ずしも、十分に理解されていなかった面があった。また、提言の実行にあたっては、トップダウン方式で行われたために、教員の間に関心や忌避感情を生じせしめていた嫌いもあった。

しかし、啓蒙的な活動の段階を終え、さらに効率的かつ実効性のあるFD活動の推進を図るためには、全学の教務委員会および学部教務委員会の協力を得なければならないことが明らかになってきた。実際、学部ごとに教授する学問の性格が異なり、当然、教育目的や教育方法も異にしており、また入学する学生の学習意欲や学習能力についても、かなり、ばらつきがある。このような状況において、全学のFD委員会がすべての学部に通用的な教育方法を開発し、教員に実行させていくことは、現実的でなく、不可能である。やはり、各学部が主体的に各学部にとって最も有効なFD活動を模索し、かつ推進していくということが王道であろう。そして、今後、全学のFD委員会は、摂南大学全体で行うべきFD活動は引き続き継続していくことはもちろんであるが、さらに各学部のFD活動を積極的に後援していくというスタンスを取るようになる。

学部におけるFD活動をどのような方針で取り組んでいくかは、それぞれの学部で真剣に検討すべき問題である。今後、特に、18歳人口の減少により、入学してくる学生の学習意欲や学習能力の全般的な低下は避けることができない。そのような学生をどのように教育していけばよいのかを探求することが、今、まったなしの状況にあるということを認識すべきであろう。

## 2006年度摂南大学FD委員会の紹介

FD委員会は委員16名、オブザーバー1名、幹事1名で構成されています。委員は委員長以外を3つのSG（スタディグループ）に分けてFD活動を分担しています。以下に構成員名並びに今年度の各SGの方針を紹介します。

委員長：牛丸 與志夫（法学部）

副委員長：川野 常夫（工学部） 山口 真佐夫（外国語学部）

SG1：学生による授業アンケートの実施及び結果解析担当

一色 美博\*（工学部） 永井 興史郎（工学部） 川野 常夫（工学部）

西川 真由美（外国語学部） 稲継 尚（経営情報学部） 太田 壮一（薬学部）

SG2：公開授業・FDフォーラム等授業改善担当

三成 美保\*（法学部） 熊谷 樹一郎（工学部） 山口 真佐夫（外国語学部）

瀬戸 宏（外国語学部）、有馬 善一（経営情報学部）、佐久間 信至（薬学部）

SG3：情報宣伝活動担当

渡会 征三\*（工学部） 片田 喜章（工学部） 三木 僚祐（経営情報学部）

オブザーバー：渡部 一仁（教務部長）

幹事：喜多 勤（教務課長）

注：\*印はSG責任者

### SG1

## 2006年度「学生による授業アンケート」について

SG1・一色 美博（工学部）

摂南大学で開講する授業の教育方法を継続して改善することを目的として、2002年から実施されている「学生による授業アンケート」は、本年度で5年目となります。本年度前期の授業アンケートは6月23日（金）～7月6日（木）の2週間に実施します。昨年度は授業担当者コードの末尾が奇数の科目を前期、偶数の科目を後期に実施しましたので、今年度はその逆とし、末尾が偶数の科目を前期の実施対象科目とします。なお、実施対象科目以外の科目についても、学部・学科・教員が必要とする場合は実施できます。

今年度のアンケートの内容には次の変更点があります。

#### 共通質問項目の変更

「教員は、学生からの質問や質疑に誠実に答えていた」との質問内容は、質問などを行っていない学生や教室外での教員の対応を知らない学生にとって回答しづらいので、「教員は、熱意を持ってこの授業を進めていた」に変更しました。また、教室設備などハード面に対する意見を問うため、「この授業を受講した教室の設備は整っていた」を追加しました。

#### 個別質問項目欄に学部枠を設定

学部ごとに集計処理のできる学部枠を個別質問項目欄に設けました。各学部の教育目的・目標に適した共通の質問項目を設定し、学部の組織的なFD活動にご活用ください。また、学部枠以外の個別質問項目欄には担当教員の教育力向上のための質問項目を設定してください。なお、追加の質問項目の例として、授業アンケートの実施要領とともに、

別途「質問項目集」をお届けしますのでご利用ください。

#### 自由記述欄の変更

学生の意見や感想を広く聞くため、自由記述欄に「この授業の満足できた点」、「この授業の改善すべき点」、「この教室の設備などの改善すべき点」、「その他の感想など」の項目を記載しました。

アンケートの実施方法は従来どおりです。学生のプライバシーと公正さを期し、学生の率直な意見を聞くため、無記名のアンケートとします。また、集計結果などの取り扱いについても従来どおりとし、授業科目ごとの集計結果を各担当教員にお知らせするとともに、各学部・学科に開講科目の集計結果を提供します。学生への公開は、全学・学部・学科ごとの集計結果を掲示により行う予定です。また、公開を希望する授業科目については、担当教員のコメントを付記した上で学内専用のWebに公開する予定です。

最後に、5年目を迎えた本学の授業アンケートをさらに充実させるため、学生と教員の貴重な時間を費やして得られたアンケートのデータを有効に活用することが望まれます。このため、学部・学科の組織的FD活動および担当教員の教育力向上に利用できる集計データを提供するための集計システム、教育改善の事例を公開する方法について検討する必要があります。

以上

## SG2

### 2006年度授業公開・FDフォーラムの実施方針について

SG2・三成 美保（法学部）

SG2では、授業公開とFDフォーラムについて、より具体的な授業改善を達成するため、以下のような方針を決定した。

#### 1. 授業公開

##### (1) 方針

2006年度は、授業公開を学部単位で実施する。具体的には以下の通りとする。

実施回数は年1回とし、前期・後期のいずれの時期に実施してもよい。

授業公開の方針は学部ごとに立案するが、「実施しない」という選択肢はないものとする。

学部方針立案の基準は、「効果的な授業公開」とする。どのような方法が「効果的」であるかについては、学部FD委員会等で検討する。

学部単位の授業公開の方針や日時はFDニュース等で全学的に案内・周知し、実施後に成果と今後の課題をFDニュース等において総括する。

##### (2) 趣旨

従来、授業公開は各期1回ずつ、全学一斉に期間を定めて実施してきた。2005年度には、公開対象とする授業を各学部で一定基準（授業方法のユニークさ・学生の人気度など）にもとづいて推薦・選出してもらうという新しい方針を決定した。その趣旨は公開授業の主たる目的を「模範授業」の聴講におくということにあった。しかし、一定

の目的は達したものの、種々の不都合は克服できないままであった。たとえば、全学一斉実施の結果、実施期間が限られ、授業調整ができず、教員の聴講参加が少なくなる、あるいは、他学部の授業は授業改善に役立つ点が乏しく、授業公開への関心が低いままにとどまるなどである。

したがって、2006年度は、授業公開を学部単位で実施し、具体的な授業改善につながる方法や目的設定を学部ごとに検討してもらうこととした。できるだけ多くの学部教職員が参加できるようなプランにすることが望まれる。

## 2. FDフォーラム

### (1) 方針

2006年度のFDフォーラムの実施方針は、「具体的な授業改善につながるフォーラムの企画・実施」とする。実質的な成果をあげるため、2種類のFDフォーラムを実施する。[1]全学FDフォーラムと[2]学部FDフォーラムである。

#### [1]全学FDフォーラム

実施は年1回とする。

実施時期・方法・テーマ等については、SG2全学FDフォーラムWGにおいて検討する。開催はできるだけ早めにFDニュース等で全学に案内・周知する。

<全学FDフォーラム・ワーキンググループ>

三成(WG長)・有馬(WG企画責任者)・佐久間・熊谷  
成果と課題はSG2でとりまとめ、FDニュースに掲載する。

暫定案

・実施時期 2007年3月

・構成

フォーラム3時間(全体企画2時間+学部FD活動報告1時間)

フォーラム後に簡単な懇親会(1時間半程度)をもうける。

#### [2]学部FDフォーラム

学部の自主性を尊重した企画とする。ただし、あくまで全学FD活動の一環として実施するため、FD委員会が決定した全学FD方針(「具体的な授業改善につながるフォーラム」)に即した学部FDフォーラムとする。学部FDフォーラム企画は、全学FD委員会で報告し、その承認をうけるものとする。

開催時期・開催方法は任意とし(研究会・研修会・懇談会など)、授業公開と連動させてもよい。参加対象者は学部教職員とする。できるだけ多くの教職員が参加できるような企画とし、学科ごとの開催も可とする。

開催についてはFDニュース等で全学的に案内・周知する。他学部からの参加希望があれば、積極的に受け入れる。

学部FDフォーラムの成果は、全学FDフォーラムおよびFDニュースで公表・総括し、次年度の課題を明確にする。

学部FDフォーラムの企画責任者はSG2委員とする。企画責任者とは別に学部フォーラム運営責任者を定める(企画責任者と運営責任者が一致してもよい)。

<学部FDフォーラム企画責任者>

工学部（熊谷）・薬学部（佐久間）・外国語学部（瀬戸）・  
経営情報学部（有馬）・法学部（三成）

## （2）趣旨

従来、FDフォーラムは年3回ほど、全学規模で実施されてきた。その趣旨は「FD活動の意義」を教職員に周知徹底させることにあった。学外から専門家を招聘して講演を依頼する、あるいは、先進的な取り組みをしている他大学のケースを検討するという形式で実施されてきた数年間のFDフォーラムの成果として、いまやFD活動の重要性は教職員に十分共有されたと考えられる。

今後求められるのは、FDフォーラムを具体的な授業改善につなげることである。そのためには、全学規模でのFD情報の共有とFD研修活動を継続しつつ、他方で、より実践的なFD活動を達成するために学部FD活動の充実をはかる必要がある。したがって、全学FDフォーラムと学部FDフォーラムに分けてそれぞれの目的を達したい。

以上

## SG3

### 「FD活動情報宣伝担当」の2006年度活動の方針について

SG3・渡会 征三（工学部）

SG3では従来からのFDニュースやFD活動報告集の刊行に加え、今年度はwebによる情宣活動を検討している。その内容としては、以下のものが可能性として考えられる。

- a)過去のFDニュースや活動報告集のデータをリンクすることによるweb上での常時閲覧、
- b)全学FDフォーラム・学部FDフォーラム・授業公開の開催通知、
- c)各学部・学科のFD活動の取り組み紹介、
- d)学内教員向け掲示板（FD活動に関する意見交換）
- e)ストリーミング機能を用いた授業公開（期間限定・授業公開を行った各先生の了承を得た場合のみ）

特に、e)は音声と映像をデータ化してサーバーに取り込み、配信するもので、授業公開の様態を参加者以外も傍聴でき、講義が重なって参加できない場合や他学科・他学部の公開授業を視聴したい場合にも有効であろう。現段階では学内でのみの閲覧を想定しているが、FDニュースが外部へ配布されている事実を鑑みると、将来的にa)b)c)などを外部公開することも可能なのではないかと考えられる。

以上

## 2005 年度後期「学生による授業アンケート」実施結果

2005 年度 F D 委員：紙 博文(経営情報学部)、牧野 幸志(経営情報学部)

### 実施状況

2005 年度の学生による後期授業アンケートが、後期期末の 12 月 5 日(月)～12 月 17 日(土)の 2 週間にわたって実施された。

2005 年度より授業アンケートは、教職員及び学生の負担減とマンネリ化防止のため、教員のコード番号末尾が奇数が偶数かによりその対象科目を前期・後期に分けてほぼ半分ずつの科目を実施することとした。したがって、今回の後期授業アンケートでは、教員のコード番号末尾が偶数番号の教員が担当する科目が対象科目となる(但し、C 科のみ全科目が対象、これは前期と同じである)。

今回(2005 後)の授業アンケート参加教員(専任・非常勤問わず)比率は 99.1%(2005 前が 100% 2004 後 98.9%)であった。アンケート対象授業科目数は 681 科目。従来の授業科目数は、2005 前 660 科目であり、2004 後 1,201 科目(全科目が対象である)であった。また、回答者延人数は 18,607 人(2005 前 24,407 人、2004 後 45,718 人)。その回答率は 58.4%(2005 前 64.9%、2004 後 53.9%)であった。回答者延人数は 2005 前と比較して 23%程度減少、回答率も前期と比較すれば 10%の減少を認めることができるが、2004 年度後期のものと比べれば、僅かではあるが数値の上昇を認めることができる。データ数の半減の影響がどういった影響を及ぼすかは今後の経過を待たねばならないが、回答率は授業の出席状況を示す指標でもあり、この数値の僅かながらの増加は、出席率の高まりを示すものであるといえよう。

\* 注...上記本文の( )内では、2005 年度前期を 2005 前、2004 年度後期を 2004 後と記している。以下、同じ。

### アンケート結果概要

全体の評価の最小値・最大値・平均値を表 1 に示す。今回は、質問項目が 6 項目となって後期としては 2 回目、授業アンケート参加人数が半分となって 2 回目の授業アンケートである。参加人数が、ほぼ半分と少なくなったことでこれまでの継続性の維持とアンケートの精度の低下が危惧されるところであるが、これについては今後の経過を待たねばならない。本アンケートの結果は、次の通りである。表のうち、[ ]内の数値は 2005 年度前期、{ }内の数値は 2004 年度後期、( )内の数値は 2003 年度後期のものを表している。

#### - 1 学生の評価

表 1 より、6 つの質問項目の平均値は 2004 年度後期の実施結果のものと比較すると、A1～A6 にいたる全ての項目で 0.01～0.05 ポイントの上昇をみることができる。とりわけ、A3「質問や疑問への対応」においては 0.05 ポイント上昇している。また、これを 2005 年度前期の数値と比較しても A1「出席状況」を除く、全ての項目で 0.1～0.16 ポイントの上昇を認めることができる。これは回答延人数が、前期と比較して 23%減少したことにその要因であるとも考えられるが、教員の授業改善に対する努力の結果も忘れてはならない。

相関係数の結果については、学生の満足度は、A5 の「教員の話し方」との相関が最も高く(0.83)、また、A3「質問や疑問への対応」、A4「授業内容を深める工夫」の満足度との相関係数(A3 0.75、A4-0.81)も高い。各質問項目と満足度との相関係数は、2003 年度前期、2004 年度前期、今回の 2005 年前期と総じて数値が上昇してきており、各々の項目と満足度との関係がより密接になってきていることがわかる。なお、A1 の「学生の出席率」と満足度との相関は認められない。これは毎回同じ結果である。

表1 各質問項目に対する評価の最小値、最大値、平均値と満足度との相関<sup>1)</sup>

問	項目	最小値	最大値	平均値	相関係数 <sup>2)</sup>
A1	出席状況	4.12[4.27]{4.18}(4.06)	4.66[4.66]{4.59}(4.58)	4.41[4.47]{4.39}(4.3)	0.14[0.14]{0.14}(0.13)
A2	学生の授業への意欲度	3.65[3.64]{3.75}(3.66)	4.04[3.94]{4.04}(3.91)	3.9[3.8]{3.88}(3.76)	0.61[0.62]{0.62}(0.53)
A3	質問や疑問への対応	3.75[3.61]{3.73}(3.60)	4.24[3.96]{4.10}(4.01)	3.92[3.78]{3.87}(3.90)	0.75[0.74]{0.74}(0.63)
A4	授業内容を深める工夫	3.70[3.52]{3.64}(3.57)	4.17[3.83]{4.03}(3.90)	3.80[3.69]{3.78}(3.75)	0.81[0.80]{0.80}(0.7)
A5	教員の話し方	3.55[3.47]{3.54}(3.49)	4.15[3.78]{4.02}(3.86)	3.73[3.62]{3.72}(3.69)	0.83[0.81]{0.81}(0.73)
A6	学生の満足度	3.58[3.47]{3.62}(3.49)	4.15[3.78]{4.04}(3.88)	3.78[3.62]{3.77}(3.68)	

注<sup>1)</sup> []内の数値は2005年前期、{}内は2004年度後期、( )は2003年度後期の数値

注<sup>2)</sup> 相関係数は、A6「学生の満足度」との相関係数。

## アンケート結果の分析

### - 1 実施状況・結果

学生の授業の満足度（質問項目 A6）と諸要因との関係について以下に示す（1）～（6）の項目について調査・検討した。

#### （1）履修登録者数と満足度との関係

学部・学科ごとにばらつきがあるものの履修登録者数が増加するにつれて満足度も低くなる傾向がある（20人未満の履修登録者の平均満足度は4.31と最も高い）。ただ、L科140人以上の履修登録者の授業（4.25）また、I部の160-180人授業（4.1）Y部の200人以上の授業（4.2）の履修登録者での授業満足度が高い値を示している。全体として、2005年度前期の満足度より全般的に高い値を示している。

なお、L部は2005年前期、2004年後期、2004年前期と同じ現象をみている。また、今回、L部では80人以下の履修登録者に授業満足度が高い値（4.0以上）をみる。この傾向も毎回同様である。原因は定かではないが、授業の満足度の値は、履修登録者数の多寡を要因とするものあくまでも授業内容、進め方、工夫等にあることの実例なのかもしれない。

#### （2）教員年齢と満足度との関係

教員年齢を「5歳ずつ」に分けて10段階で分析を行なった。例年、教員年齢が高いほど満足度は低い値を示していたが、今回、満足度が最も高いのは40歳以上45歳未満のクラス（4.06）であった。また、今回、30歳代のクラスでも概ね高い満足度（30-35歳3.93、35-40歳4.00）を示しており、従来の傾向とは、若干、異なった現象を示している。なお、毎回最も高い満足度を示す30歳未満のクラスの満足度は、今回3.71であり、この値は、2005年前期の4.02、2004年後期3.84と比べても低い値である。ただ、今回の傾向は、2004年後期のものとやや類似しているようであり、これまで述べてきた“教員年齢が高いほど満足度は低い値を示す”という傾向に変化がみえる。本学の場合、45歳～65歳までの年齢層の教員の授業に多くの学生が学んでいる。このことが、上述の満足度に影響しているとも考えられる。

#### （3）職階と満足度との関係

本学の専任教員に限定し、職階を「教授」、「助教授」および「講師」の3区分に分類し満足度の違いを分析した。専任に対する満足度は「教授」3.69（2005前3.54、2004後3.38）「助教授」3.78（2005前3.8、2004後3.83）「講師」4.22（2005前3.95、2004後4.09）の順で満足度は高く、職階とは反対である。この傾向は毎回同様である。非常勤に対する満足度は、3.77（2005前3.69、2004後3.74、2003年後3.57）であり、後期に関しては、ポイントの僅かながらの上昇を示している。

#### （4）授業時限と満足度との関係

授業時間を「1限」から「5限」に分けて分析した結果、学部、学科にて満足度の高い時限は異なっているものの、今回は「1限」の満足度が3.84で最も高い（但し「0限」は除く。2005

前は「2限」、2004後「3限」であった)。しかし、「1限」～「5限」の満足度は、3.74～3.84(2005前は3.64～3.73)の間に分布しており時限により満足度に大きな差異はない。

#### (5) 選択・必修科目と満足度との関係

「選択科目」と「必修科目」(含む選択必修)に分類し、分析した結果、満足度の平均は「選択科目」で3.77(2005前3.64、2004後3.74)、「必修科目」が3.82(2005前3.82、2004後3.89)であり、「必修科目」が「選択科目」を平均値では上回っている。これは従来と同じ傾向を示している。また、E科とA科、Y部で満足度が、「選択科目」に比べて「必修科目」が低い(2005前は、E科とM科、2004後ではE科、Y部でこうした傾向がみられた)。

#### (6) 分野別教科と満足度との関係

教科の分野を「専門」、「専門関連」、「基礎」、「教養」および「教職」の5分野に分けて満足度との関係を分析した結果、「教職」の満足度が最も高く4.75であった。「教職」については、2005年度前期4.20、2004年度後期4.32といずれも科目分類別では最も高かった。しかし、回答者数は今回も28人(2005前96人)と極端に少ない上での評価値であることに留意すべきである。なお、専門の回答者数は12,295人、教養のそれは1,609人であった。また、「専門関連」の満足度が3.41と最も低い。これもこれまでと同じ傾向である(2005前3.42、2005後3.45)。

#### - 2 まとめ

学生による授業の満足度と各質問項目との関係について、全体としては、前回(2005前)前々回(2004後)とほぼ同じ傾向を示した。以下に要約する。

全般的に、履修登録者数が少ないほど満足度が高い傾向がある。ただし、一部の学部(L部)においては若干異なる。

概ね、教員年齢が増すほど、また職階が高くなるほど学生の授業の満足度は下がる傾向があるがそれほど顕著なものではない。

2005年度後期は「1限」の満足度が最も高い(2005年度前期は「2時限」)が、各授業時限にそれほどの差異はない。

選択科目より必修科目で満足度は高い(従来どおり)。

科目分類別では教職科目の満足度が最も高く専門関連科目の満足度が最も低い(従来どおり)。

#### おわりに

2005年度は、新しいアンケート方法で授業アンケートが実施されたが、教員や学生の負担軽減とマンネリ化の防止という当初の目標が達成されたであろうか。前者については、実施にともなう教員、学生、事務職員の物理的負担が軽減され、実施にかかる時間も縮小され、目標が達成されたといえるであろう。後者については、今後、改善点を含めて検討していく必要があるだろう。本学における「学生による授業アンケート」は、2002年度より開始され、今回で丸4年が経過しようとしている。本来であれば、“その充実期を迎える”はずであるがいかがであろうか。「データの継続性」を維持しながらも何らかの工夫、新しい試みが必要なようである。

なお、今回は、前回までであった学生による自由記述欄の記入事項の提出がなかったこと、教員の授業アンケートに対する意見の回収がされなかったことが教務課より報告があった。それらは本報告書に掲載しなかったことを追記しておく。

以上

#### F D委員会から

- \* 皆様からのご意見を紙面でも紹介したいと考えています。随時、メールで結構ですから、FD委員もしくは教務課([kyomu@ofc.setsunan.ac.jp](mailto:kyomu@ofc.setsunan.ac.jp))までお寄せ下さい。
- \* 次号のFDニュース第18号は2006年9月頃に発行の予定です。